ライオンの爪切りトレーニング

○矢作　薫里
（横浜市立よこはま動物園）

よこはま動物園において、過去の左前肢骨折の影響により爪の異常伸長およびパッドへの刺入が見られた 14 歳の雌ライオン 1 頭を対象に、麻酔のリスクを考慮したハズバンダリートレーニングによる爪切りおよび抜去を試みた。対象個体は過去の爪切り時の出血経験から爪への接触に対して激しい拒絶反応を示していたため、針金やニッパーを用いた段階的な脱感作トレーニングを実施した。ターゲットを用いた姿勢保持の訓練や個体の反応に応じたステップアップを行うことで、トレーニング開始から 89 日目に原因となっていた第一指および第二指の爪の抜去に成功し、歩行状態の改善と自発的な爪とぎ行動の回復を確認した。本事例を通じて、1 回あたり 3〜4 分という短い実施時間、テンポの良い報酬付与、および柔軟なアプローチの組み合わせがハズバンダリートレーニングにおいて有効であることが示された。今後の課題として、網の外に出しにくい第一指の伸長への対処法や加齢による姿勢保持困難時の麻酔選択基準の策定が挙げられる。